

この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

no. 60

境二丁目にて

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



今回の作品は、四月上旬のある日、境二丁目で、珍しく屋上に咲く桜を見上げながら描いたものである。

ここで、見上げるで思い出したことを紹介したい。今年の三月にいよいよ北海道新幹線が開業するが、実は昭和六十年のNHKの番組「見あげれば海の底——津軽海峡——」（連続番組「ぐるつと海道3万キロ」の一部）で、当時建設中の青函トンネルの様子が紹介されていた。

その頃、私は国鉄本社で通訳の仕事をしており、青函トンネルの工事の視察で訪れたイギリス国鉄の三人の専門家に同行、その時の様子がたまたまNHKで取材され、テレビで放送された次第である。

工事責任者の案内で、世紀の大工事を目の当たりにした代表者のグリーン氏が、思わず発した一言、「青函トンネルを世界の七不思議に加えたいほどだ」が、今でも脳裏に焼きついている。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすかかずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。